

歯は口より、 ものを言い!?

小池デンタル
クリニック発



銀歯は虫歯になりやすい!?

意外に知られていませんが、虫歯の治療を銀歯で行うと、再度虫歯になる確率は高くなります。

ではなぜ虫歯になりやすいのでしょうか？

銀歯での治療は、他の治療法に比べて歯と銀歯の間に隙間が多くなります。その隙間から虫歯のもととなるバイ菌が入り込み、銀歯の中でどんどん繁殖します。そして銀歯のまわりが黒くなってきます【図1】。

銀歯を取り外すと、多くはこのように虫歯になっています【図2】。

自然に外れてしまう場合はもっとひどい状態です。



【図1】
銀歯の隙間

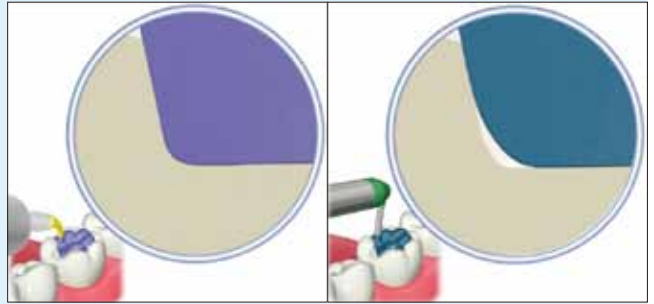


【図2】
銀歯の中の虫歯

なぜこんなに隙間が大きくなるのか？

銀歯は悪いところを削りとったあと、型取りをして、石膏で模型を作り、その上で作業して仕上げていきます。しかし、保険適用外の材料とは違い、型取り

の精度が悪く、細かいところまできれいに再現できません【図3・4】。

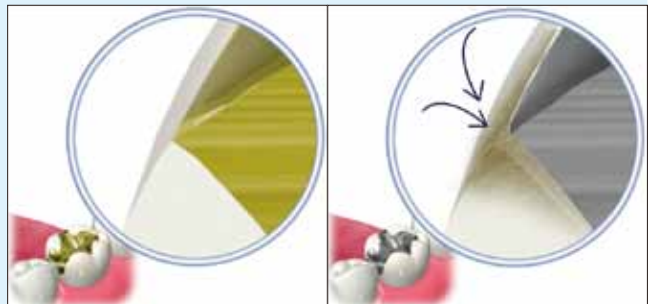


【図3】 保険外の型取り

【図4】 保険の型取り

石膏の種類も同じように精度の良いものではありません。咬み合わせを再現するための材料も違います。

他にも作り方や使用する材料がいろいろと違うため、できあがったときの精度の差はさらに大きくなります【図5・6】。



【図5】 保険外の精度

【図6】 保険の精度

できあがったものを取り付ける(隙間を埋めることにもなる)材料も、良いものは保険適用外になります。さらに隙間を長期間きれいに埋めるので、早くダメになり隙間が大きくなることもありません。

隙間が大きく、何度も虫歯の治療を繰り返すことで、結果として歯が早く失われ、入れ歯への近道となってしまいます。大きな銀歯でなければ保険適用のもので隙間の少ない治療を行うことができます。

次回、その説明をします。あきらめず、長く自分の歯を残せるようにしましょう。

院長 小池秀行

※イラストは「デンタルフラッシュ3 (株)Cyberデジタル」より引用